

## 学校・生徒の15首

本田一弘・選

大きめの制服のなかに身を入れて高三の後を中一あるく

桜川 冴子

学校にはあまたのフック取りあへず今日を吊るしてゆらゆらとする

梶原さい子

人けなき体育館に籠球の底の抜けたる網さがりある

志垣 澄幸

学校のぐるりにさくら咲きみちて鬱々とせるものをやしなふ

久我田鶴子

満ちむ潮に耐ふる崖夏服の少年たちの試験の午前

上村 典子

シャンプーの香をほのぼのとたてながら微分積分分子らは解きおり

俵 万智

玉砕だあ 叫ぶ声ありはつなつの考査終はりしざわめきのなか

大松 達知

もう二度とこんなにも多くのダンボールを切ることはない最後の文化祭

小島 なお

七十二名の命がじんと冷えてゆく体育館の暗闇の中

田中 拓也

浮彫の校歌に夕のひかり射し家族は見上ぐ投票に来て

花山多佳子

泣きながらあをあをと髪垂らしある女子高生を麦とし思ふ

喜多 昭夫

チヨークまで冷えてある朝の教室に男子入り来チヨークのやうに

小川真理子

生徒らが石垣りんの詩のようにすんと立ちおり校庭の冬

染野 太朗

海港のごとくあるべし高校生千五百名のカウンセラーわれは

伊藤 一彦

さらさら鉛筆はしる音みちてひとは言ふとも学校清し

小池 光